

松風会 NEWS

(ゆめクラブ)

384号

2018年7月号

鬱陶しい梅雨の季節となりました。高温多湿の日々が続きますので食べ物や飲み物に気を付ける一方、適度な水分補給をして熱中症にかからないようにしましょう。松風台の公園、街路樹の深緑や各家の庭先の草花が綺麗に初夏を飾っています。またバス停や自治会館脇の花壇では関係各位の貴徳な方々のご尽力で色とりどりの綺麗な花が咲き誇っています。

7月度定例会→7月14日(土) 午前10時から12時まで自治会館で行います。

1. 6月度定例会報告 (6月9日 10:00~11:00 出席者33名 会員数56名)

- (1) 松風会夢クラブの歌を全員で合唱
- (2) 誕生会

6月は勝亦久子さん、立花京子さん、千田雄輔さんのお三方でしたが、立花さんと千田さんは欠席でした。お祝い品を差し上げた後、全員でハッピーバースデーを歌ってお祝いしました。勝亦さんから「この松風会に入会して多くの会員の方々と楽しいお付き合いをさせて頂き、その上に皆さんから元気ももらって今日まで健康でこられ、感謝しています。これからもよろしくお付き合いください」とのお礼の言葉がありました。

(3) 茅老連定例会報告

- ①麻雀大会 7月5日(木) 1時~(12時15分 受付開始) 場所;市庁舎別館コミュニティホール 当松風会から釘宮、竹村、児島、田中、福江、山下、浦嶋(敬称略)の7名の方が参加です。会費一人500円(お茶代他、お昼は各自済ませること) ルールなどは事前に別途説明会を設けます。(後日連絡します)
- ②下記の生きがい事業が開催されます。「はじめての俳句教室」は広報ちがさき6月1日号、その他の教室は広報ちがさき6月15日号に掲載の要領でお申込みください。申し込み多数の場合は抽選
 - ・「はじめての俳句教室」 7月3日(火)、10日(火)、17日(火) 9:30~11:00
7月31日(火)、8月7日(火) 9:30~12:00
費用は1,500円 会場;老人福祉センター3階第一会議室
 - ・「初心者の折り紙教室」 7月23日(月)、30日(月)、8月6日(月)、20日(月)、9月3日(月)
5回コースでいずれも10:00~11:30
費用は1,000円 会場;老人福祉センター3階第一会議室
 - ・「初心者のフラダンス教室」 7月23日(月)、30日(月)、8月6日(月)、20日(月)、9月3日(月)
5回コースでいずれも13:30~15:00
費用は300円 会場;老人福祉センター3階 大広間
 - ・「初心者の太極拳教室」 7月27日(金)、8月3日(金)、10日(金)、17日(金)、24日(金)
5回コースでいずれも10:00~11:30
費用は300円 会場;老人福祉センター3階 大広間
- ③日帰り旅行 8月28日(火)
昭和の面影が色濃く残る懐かしのSL列車「大井川鐵道SL乗車」 費用は一人7,500円
本日現在の希望者は9名、締め切りは7月5日まで。 申込みは竹田会長まで。

④6月のグラウンド・ゴルフ練習日6月22日(金)11:30~14:30 円蔵スポーツ広場

6月25日(月) 8:30~11:30 円蔵スポーツ広場

⑤生きがい交流事業「きずな」(毎月第4火曜日) 6月26日(火) 11:00~14:00

老人福祉センター(JA農協ビル3階 大広間)

内容;お口の体操、カラオケ、みんなで歌おう。弁当や飲み物を持参してください。

(4) 新入会員紹介 3名の方が入会されました。

川口寛さん()は6月から、石川達雄・祐子ご夫妻()は7月から

麻雀が趣味で先日来、見学・体験され今回の入会となりました。よろしくお祈いします。

(5)「楽しみ会」アンケート 先日来、那須部長から会員全員を対象にアンケート調査を実施しています。7月度定例会後の役員会で調査結果をもとに今後の対応を決めてゆくことになりました。

(6)茅老連大運動会は1週間の雨天順延の後、5月26日(土)に92団体約1,000名が参加しました。

(当会から15名参加)「走らない」ことで各種競技を行い、午後2時過ぎ無事故で盛況裏に終了しました。

(7)現在のカラオケの選曲教をもっと増やしてほしいとの要望が提起されて、大友さんから然るべき対応が可能とのご意見があり、近日中に実現の見通しがつくことになりました。

2. 7月誕生の方 飯島徹也さん、中井明子さん、花水清子さん、脇山邦子さん、竹内縫子さんの5名です。おめでとうございます。

3. 7月度「お楽しみ会」の日程

月曜日 2日、9日、16日、23日、30日の各日で時間は13時から16時

金曜日 6日、13日、20日、27日 の各日で時間は11時~2時です。

(金曜日は11時から麻雀教室があります)

<雑感> 会長研修会が6月11日(月)~12日(火)にかけて実施され参加してきました。

東日本大震災で地震・津波さらに原発事故の発生でいまだ避難生活が続いている福島県富岡町の実態を町民自らの言葉で語り伝え、「風化」を防ごうと活動しているNPO法人の方の口演です。

<口演内容>

3月11日宮城県牡鹿半島の東南東沖130Km、仙台市の東方沖70Kmの太平洋の海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生。地震の規模はマグニチュード9.0。富岡町の震度は6。津波は最大21.1m。そして東京電力福島第一原発爆発。

地震、津波の被害に遭い、混乱が収まらない町民に3月12日の早朝に避難命令がでた。深刻な原子力発電所の事故とは夢にも思わず避難命令に従い着の身着のまま、2~3日程度の着替えと貴重品だけを持って、避難した。しかし、7年が過ぎたいまも多数の住民が全国に散らばって避難生活を続けている。23年3月11日人口15,827人(世帯6,301戸)→30年5月1日 人口13,185人(世帯5,507戸)一見人口は戻ったように思えるが、人口の大部分は除染のための作業従事者である。

現在、野生化した動物たちが町を歩き、家屋は崩れたまま、道沿いには黒い袋(除染した土が入っている)が積み、高台や緑の多い場所の放射線量はまだまだ高く、立ち入ることはできない。震災の頃のまま時間が止まったと言われているが、数年という動かない時間は確実に流れ、刻々と寂れている。31年4月1日帰宅できる地域が一部できたが、いまだ除染できない地域が15%ある。一番深刻な問題は、家族の崩壊と教育の問題である。語り部の方も、震災当初は一部損壊だった自宅が帰宅困難区域で、居住できないうちに半壊になり、悩んだ末に解体した。自宅が、故郷が、と胸が痛く、苦しい。フクシマは、自然災害による被災でなく、「原発事故」という人災による被災によって人々が苦しんでいること、復興という言葉が飛び交う今でも、その苦しみは続いていることが実感できた内容でした。また、私たちにできることは何かと考えさせられました